

**令和5年度第2回長野市放課後子ども総合プラン推進委員会
会議要旨**

日 時 令和6年2月2日(金) 午前10時から11時50分まで
 場 所 第一・二委員会室 第一庁舎7階
 出席委員 中山委員長、古川副委員長、石田委員、小林委員、瀬尾委員、竹田委員、
 中澤委員、服部委員、宮澤委員、横山委員
 事務局出席者 島田子ども未来部長、伊東子ども政策課長、前島教育次長副任兼学校教育
 課長、東福寺子ども政策課長補佐、松橋子ども政策課長補佐(社協駐在)、
 原山子ども政策課長補佐、青木子ども政策課係長、青沼子ども政策課係
 長、内田指導主事、中山指導主事、山崎子ども政策課主事、一般財団法人
 ながの子ども財団 日台事務局長兼事業推進課長、増田総務経営課長
 傍 聴 者 なし
 報道機関 2社(信濃毎日新聞社、長野市民新聞社)

発言者	内容
	1 開会 委嘱書交付
事務局	2 挨拶
	3 自己紹介 委員、事務局職員
	4 委員長及び副委員長選出
事務局	5 議事 (1)放課後子ども総合プラン事業の実施状況について 資料1により説明
委員	《質疑応答》 館長をやっていて思うのが、施設では延長で19時まで預かっているが、途中で寝てしまったり、窓からお迎えを待っていたりする子がいる。気になっているのが、遅くまで残る子どもに切れやすい傾向や、職員に甘える傾向がある。遅くまで預かることは、子どもの成長につながるのか。国の指針や、人手不足などの問題があり、長野市だけでは難しいと思うが、長時間の預かりが良いものか疑問である。
委員	保育園では、延長保育で19時くらいまで利用していた立場として、親としては早く迎えに行かなければと思う一方、助かっている面もあった。良い形で、プラン事業にも反映していただけたらと思う。

事務局	<p>切れ目のない支援を市政全般で進めている。保育園は、18時30分や19時まで延長保育をしており、預ける所を選ぶことができる。ライフサイクルを守りながら、仕事と子育てを両立することができる。</p> <p>一方で、小学校は施設を選ぶことが難しい。幼稚園や保育園から小学校に上がった途端に、お子さんの預かりができにくくなり、ライフサイクルを変えなければならない方々が出てくる。こういった課題があるため、いわゆる小1ギャップがないように、ニーズを伺いながら対応するというので、財団でも検討を進めている。賛否両論あると思うが、なるべく良い形でできたらと思う。</p>
委員	<p>私は、臨床心理でスクールカウンセラーをやっていたため、保育時間が長くなっていることや親との時間が少なくなっているということで、委員がおっしゃることは、感じるところである。</p> <p>一方で、子育て支援という意味では重要な役割があって、働き方が多様化しているなかで、小1ギャップのような問題は、全国的にも言われている部分で、時代のニーズに合わせて対応していかなければならない。そのなかで、親と子どもが一緒にいる時間が少なくなり、保育者なり、他の支援員がどういう役割を担っていくのか、現場に求められる力はより高くなっている。そうしたところが、今後何か専門性のところで、考えていかなければならないと思う。ここは大事なところだと思う。</p>
委員	<p>児童館や児童センターを子どもプラザに移行するということが、最終的には全て移行してしまうのか。どちらかという、大人目線での移行のような気がするが、子どもたちは移行することについて、どのように受けとめているのか。</p>
事務局	<p>小学校施設への統合については、先ほど申し上げたとおり、基本路線である。ただし、小学校の施設へ統合することによって、例えば庭が狭かったり、遊び場が十分に確保できなかったり、制約がある児童センターについては、学校施設が使えるような形になるため、メリットがあると思う。施設や地区によってはメリットやデメリットがあるため、保護者の方や運営委員の皆さんと検討しながら、丁寧に進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>スライド6番、事業費の推移、登録児童数の推移について。</p> <p>令和4年度の決算額だが、市の持ち出しが7億円近くで、令和5年度は8億ということだが、受益者負担の観点からすると、市からの持ち出しが多すぎるのではないかと思う。現在月額2,000円の利用料をいただいているが、例えば町田市では9,000円であり、持ち出し額についてはどのように考えているのか。</p>

事務局	<p>現在月額 2,000 円ということで、実は国の標準的なスキームでいうと、事業費の半分は利用者負担になっているが、長野市はその基準には至っていない。2,000 円の利用料を導入した時に、状況に応じて国のスキームに合うような形に近づけ将来的に改定していくということで、利用料を導入した経緯がある。ただご存知のとおり、災害や新型コロナウイルスなど社会的情勢の影響もあり、現在のところ料金の改定については足踏みしていると認識してもらえればと思う。課題として捉えているため、今後の社会情勢をみながら検討しなければならないと考えている。</p>
事務局	<p>利用料については、市民の皆様にも大変影響がある部分になる。市全体、受益者負担というのにも一部入れながら、適正なコストをいただきつつ、どう両立していくかが非常に重要な課題になっている。</p> <p>今事務局から申し上げたとおり、すぐにどうこうするという話は現在のところはない。ただ、市全体でコストがかかるところを一定程度受益者で、というのは意識としては持たなければいけないと思い、日々研究検討を重ねている状況である。委員の方から市の持ちだしが多いではないかご指摘があったが、逆に言うと、今はこれだけかけて皆さんに放課後の居場所を税金をいただきながら活用して提供している、ということでご理解いただければと思う。</p>
委員	<p>職員の給与について、長野県の最低賃金が 948 円だが、補助員は時給 950 円である。新年度からは財団で考えていただいているというような話も聞いているが、持ち出しが多い分、職員の給与面で抑えられてしまう部分があるのではないかと。職員をみていると、大変だなあという仕事に見えるため、そういった部分も含め検討をお願いしたい。</p>
委員	<p>利用料にかかわって、延長利用料は保護者目線だと厳しいと感じる気持ちも分かるが、職員として働いている側からしたら、(もっと取って良いのではないかと) 複雑な気持ちである。</p> <p>以前、延長時間の利用料が上がったが、朝と夕方両方 30 分延長しても (合計 1 時間でも) 500 円であり、分かりづらい。現場にいる職員でも、説明できるようなシステムにしていただけたらと思う。意見。</p>
委員	<p>ここも非常に難しいところで、全国平均でいくと大体 4,000 円、5,000 円を徴収している。そのなかから、職員の待遇面にあてることもある。ただ利用者側からすると、安ければ安いほど利用しやすいため、どっちを取ったら良いか難しい課題ではあるが、職員の待遇は重要なため、今後検討していかなければならないと感じる。</p>
委員	<p>スライド 7 番、ICT 化について。</p>

	<p>ICT化でコドモンが導入された。コドモンは幼稚園・保育園向けのシステムであり、高学年は分からないが低学年の児童の在籍数を確認するには非常に楽だが、入退室管理について、入室は子どもが、退室は保護者がやっているが、なかにはやらない保護者もいる状態である。</p> <p>利用予定等について、入室がなければメール等で確認を取るため人手がかかる。他の施設からは、コドモンを担当する職員を別に1名つけるという話も聞いたことがある。コドモンを、より使いやすくなるよう考えていただきたい。</p>
事務局	<p>コドモンについては、賛否両論いただいている。委員のように使いづらいというご意見をいただく一方、運用がうまくいっている施設もある。そのあたりについては、施設同士の連携や、好事例を紹介することによって、定着に向けて考えていきたいと思う。また運用の細かい方法については、担当にご相談いただければと思う。</p>
事務局	<p>今ご指摘いただいたことについて、子どもたちに打刻させることで渋滞が起きたり、利用予定等について確認が大変だったりということで、他の施設と色々と研究し、少しでも良い方法を提供していきたいと考えている。</p> <p>親から来る利用予定の確認については、メーカーも改善を進めている。現場は、紙で確認というのが良いということで、一覧表が出せる機能なども少しずつ出てきているため、活用しながら効率的に働けるよう、引き続き研究し皆さんに共有していきたい。</p>
委員	<p>スライド8番、施設と学校との連携について。</p> <p>研修について、学校側はどのように考えているのか。こちらから研修のお願いをすると、働き方改革で先生方は厳しいのか、校長や教頭からは夏休みにしてほしいと話をいただき、施設は全日開館で忙しいなか工面して予定しているのに、出てくるのは校長や教頭のみで、教務主任すら出てこない。学年主任あたりが出てきてくれると、実りある研修になると思う。報告等はあげているが、果たして身になっているのか疑問。</p> <p>一方で、学校とは6月に学級担任も入れ懇談会を行い、子どもたちの様子や性格等も含め話し合いはしているが、連携については低調気味ではないか。</p>
委員	<p>それに関して、私のところも校長先生や教頭先生のみであり、ましてや夏休みにやることは無理である。ただ、校長先生や教頭先生に感想を聞くと、やって良かったという声が出てくる。昨年から私の校区の小学校は校長先生も教頭先生も変わられて、初めての研修になったが、非常に良かった。やった意味があると思っている。</p>

委員	<p>この研修の位置付けを考えていただければと思う。今委員がおっしゃられたように、私のところもこの件に関しては、校長と教頭しか出席していない。そういう点でいうと、申し訳ない気持ちもあるが、委員がおっしゃられたように、他の場面で児童センターや子どもプラザと連携をとりながら、子どもの様子を語り合いながらやっている。そこには、学年主任や一般職員も参加している。そういう場面はそういう場面で大事にしながら、1つの研修の機会、市としてどのように考えていくのかと位置付けるのが良いと思う。校長も学んでいく部分があり、全ての校長の理解が深いかというところでもない。子どもを真ん中にした場合には、社会が変革していくなかで、とても大事なことだと思う。校長や教頭の考えが変わっていくことだけでも、大きな変化はあるととらえている。</p>
事務局	<p>この問題は、社協の指導主事の方からも話を聞いている。新年度財団に移行する時も、一人ひとりの子どもと向き合うなかには、特に1年生の子は不安があったり、慣れてきた頃に色々な特性が出てきたりすると思う。それに対応できるよう、支援員のスキルアップはもちろん、学校の出来事をそのまま引き継ぎ、子どもの情報を共有できるよう、管理職はもちろん、担任の先生や実際に支援している方との情報共有の場が必要だと感じている。財団本部でも心理や養護の経験がある方を雇う予定のため、学校側とチームになって、お子さんの育成支援にあたるような支援づくりの仕組みを考えていきたい。合わせて、各校区の運営委員には学校長やPTAも入っているため、新年度から一緒に考えていく。</p>
事務局	<p>研修について、施設ごとに事情はあると思う。施設と学校との連携については、課題としてあげられるケースが多い。施設と学校が一緒に動くには、しっかりとした情報共有をしていかないと難しいと感じる。ただ対象となるのは同じ小学校の子どもたちであるため、子どもたちの支援ということで、引き続き学校と力を合わせて、支援を提供できるように頑張っていきたいと思う。</p>
委員	<p>こどもの生活の連続性というところで、密に連携をとれるというのは、子どもを支える大人たちが、子どもの姿をどう共有していくか。家庭や学校、放課後で子どもの姿は違ってくる。そういったところを含めて、子どもの相互理解はあるため、稼働時間が違うと、物理的な時間を取るの是非常に難しく壁になることがある。何とかその部分、情報共有等をさらに密にする仕組みは必要だと感じているため、検討を進めていただければと思う。</p>
事務局	<p>(2)一般財団法人 ながのこども財団について</p>

	<p>資料 2 により説明</p> <p>《質疑応答》</p> <p>委員 新年度から運用するにあたって、現時点で決まってない支援員・補助員は、いつまでに決まるのか、それとも決まらず人数が減ったままで開始するのかを教えてください。</p> <p>職員の中で勤務内容が変わることに対して、今までと同じではないということは分かるが、事務関係が全て事務の担当になり、事務の人は現場には出ないのか。4月からの勤務体制が分からず、仕事の分担ができない。また職員会議をする場合の時間外の付け方等、細かいところが分からず混乱している。</p> <p>補助員の方々に、支援員の資格を取るようお願いする気持ちはありがたいが、受験資格等が必要で簡単に取得できるものではない。2000時間の実務経験をクリアするには、1日4時間働いて2年ちょっとかかる。それをクリアするために、自分の好きなように働いて良いというように答えていただいたようだが、現場はどうシフトを組んでいったら良いのか。シフトを組む職員は、よく入ってくださる補助員の方と、シフトにはあまり入っていないが、一生懸命やったださる先生との兼ね合いに困っている。</p> <p>今年度お盆開館を拠点施設で行ったが、来年度も自分の施設を閉めて応援に職員を出すのか。4月から土曜開館はどうなるのか。それが分からないと年間スケジュールが立てられないため、分かりやすく説明してほしい。</p>
委員	<p>職員について、財団は適正な人員を把握しているのか。</p>
事務局	<p>人員配置だが、12月の時に示した勤務時間の表のとおりである。1支援単位児童40人に対して支援員を2人置く、支援員を置けない場合は、1人の支援員と1人の補助員を充てることできると国の基準で決まっている。そうしたなかで、計算した表を提示させていただいた。表をみると、マイナスやプラスの部分も出ているが、実際の運用にあたっては、これから通知するところである。</p> <p>支援員のシフトを組むにあたっては、4月に向けた職員の分担を決めている段階だと思うが、先日、館長や施設長には支援員の働き方を再確認し、話し合っていたよう通知をしたところである。</p> <p>運営に関するマニュアルについては作成中で、今後それぞれの施設に送る予定である。</p>
事務局	<p>勤怠管理システムの導入に当たっては、各施設に職員が訪問し、具体的な取り扱いについて細かい点を説明し、また質問を受けながら説明をさせていただいている。</p>

	<p>事務兼務職員については、職員が子どもの支援に集中するため、事務を子どもの支援の時間から外すという目的でやっており、基本的には出勤の前に早出していただく方を想定している。分担してやっている施設については、現状のままで結構だと説明している。なお、時間外勤務が必要であれば、時間外勤務として認めると説明をしている。</p> <p>補助員については、支援員を目指す方には、できるだけ 2000 時間をクリアしていただけるように、館長や施設長をはじめ、施設の皆さんには配慮をお願いしながらシフトを組んでもらえるよう考えていきたい。</p> <p>お盆については、もともと休館日に設定しているわけではないが、利用者ニーズ調査から、利用希望人数は多くないため、全ての施設を開館する必要はないと考えている。他の施設からも応援職員を募り、拠点施設だけの負担にならないよう運営していく計画である。</p>
<p>委員</p>	<p>これまでのお話だと、館長がそのまま移行される施設だと感じるが、変わる施設も多くあると思う。先ほどの説明のなかで、館長が決まっている施設が 14、15 施設あるということで、私たちの施設は 2 年前に館長が変わり、コロナ禍もあり大混乱になった。お子さんへの対応は待ったなしのため、館長の引継ぎがスムーズに移行できればと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>求人については、ハローワークを含めて検討させていただいているところである。また、新しい館長が着任したところでは、研修や引き継ぎが課題になると考えている。今までは館長の仕事マニュアルがなかったため、現在作成している。適切な人事配置を考えているところであり、ご承知おきいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>色々と問題点を聞き、自分たちにどんなことができるのかを考えたが、資格を持った職員を確保するのは難しく、またプラン事業の時間帯に働くことができる方は、限られてくると感じた。</p> <p>以前、ある児童センターがあった時、公民館とセンターが一緒の施設で、1 階が児童センターで 2 階が公民館だった。そろばん教室や書道教室など、色々な習い事が入っていた。習い事などを提供している人は、プラン事業の時間帯に動くことができる人たちだと思う。保育士等の資格は持っていないが、何か役に立てるのではないかと思う。例えば、100 人の子どもがいた時に、センターで 50 人、書道で 50 人見るとか。より多くの大人で、子どもを見てあげる方が良いと思う。子どもが話しやすく、健やかに育てる環境を多くの大人で提供してあげたいと思う。協力できる人が、みんなで協力できるようになれば、職員の負担も減ると思う。それが、アドバイザー活動の話につながってくると思う。アドバイザーの費用を支払うことで、市の負担が大きくなってしまえば、書道教室の時は、保護者によって送り迎えはできないが習い事をさせたい保護者が多かったため、プラザに（色々なサービスを）集約して</p>

<p>委員</p>	<p>いくことが良いのではないかと思った。</p> <p>委員がおっしゃるように、10年前に長野市がプラザをつくった時に、今委員さんがおっしゃったことがあったはずだと思う。アドバイザー活動は、外部の方が学校に入ることや、空き教室に入ることが、学校との関係もあり、この10年なかなか進まなかったのではないかと思う。当初のプラザの構想のなかには、アドバイザーや地域の方が入っていたが、今後この構想をどうしていくのか。委員のような若い方が、そのように思うということは、働く若い方の中には同じように感じる方が多くいるということだ。送り迎え等難しい問題があると思うが、今後早めに動いてもらい、どこか1つの館だけでもモデルとなる施設が生まれたら、何か希望が持てるかなと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>放課後子ども総合プラン事業の経過としては、厚生労働省の福祉としてやってきた「鍵っ子対策」の学童事業と、文部科学省の「放課後子ども教室」、委員さんたちがおっしゃっている多様な体験活動や子どもたちの学習支援など、ボランティアや地域の方々に入ってもらい、様々な交流をしていく事業だが、これら2つの事業を現在一体的に行っている。児童センターや学校を活用しながら、例えば毎日通っていた子が、大きくなるにしたがって習い事を始めて、週に数日になるなど、色々なお子さんがいらっしゃるが、(プラン事業が)放課後の多様な居場所として、子どもがやりたいことを自主的にできるように、またお子さん一人ひとりに合わせた使い方ができるように、ある程度ゆるい部分も必要なのかなと思う。資料1のスライド2番の図のように、校庭で遊ぶ子、塾や習い事をする子、児童館に行く子など、放課後に子どもが選択できるようにすること。なお、留守家庭児童のみならず、希望児童を受け入れている施設等色々な施設があるため、皆さんの声を聞きながら進めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>新しい運営主体に変わり、仕組みなども変わっていくなかで、細かいところをどんどん詰めていかなければならないと思う。施設によって事情も色々あり、いきなり全てを財団に合わせるのは無理があるため、各施設が積み重ねてきたやり方を踏襲しつつ、少しずつ理解を深めてもらいながら変えていくという1年になっていくと思う。そういう部分では、現場の先生方には、ご苦勞をかける1年になると思う。</p> <p>体験の充実に関しては、長野市の場合、放課後子ども教室と学童を一体化させたという、ある意味大きな風呂敷を広げたものの、実際はなかなか体験の充実が進んでこなかった10年間というのがあったと思う。そこには物理的な問題や人材的な問題、地域の人材を確保するのが難しい状況もあるなかで、難しいとそのまま終わりにしてしまったら駄目な部分である。新しい運営主体になるなかで、避けてはいけなところだ</p>

事務局	<p>と感じている。全国的にも、放課後に関してはお金を含め、あまり注目されてこなかったり、力が入れられてこなかったりした状態が続いていた。ただ、実際放課後の利用は多い状況で、昔とは異なり放課後の施設で過ごす意味というのは、子どもにとって重要になってきているため、今後長野市が他地域に率先して変えるくらいのつもりで、やっていく必要はあると思う。</p> <p>一方で制約等も多くあり、今学生一緒に色々と活動させてもらっているが、実際はなかなかできないことがある。そういう意味では、皆様のご意見を聞きながら、今後一気に変えるのは難しいかもしれないが、徐々に今年がこれが変えられたと、具体的に目に見える形でやっていくことが必要だと思う。</p> <p>国では、子ども未来戦略方針を出しており、様々な子育て支援、少子化対策等を含めて示している。放課後に関しては、依然として国は量を増やそうという書きぶりになっている。</p> <p>本市では先ほど事務局からお話あったとおり、鍵っ子対策の部分と、放課後子ども教室の部分に合わせて、長野市独自の放課後子ども総合プランということで、早い時期から国が見据えていくものを先取りしてやっているイメージで事業を進めてきた。お子さん、あるいは保護者のためになっていることをやっていると思う。それにつけても、学校や地域の方に応援していただいていると思う。先ほど人材の面で意見もいただいたが、多くの人たちに支えられていることを実感している。</p> <p>冒頭、小一ギャップのような話があった。私どもとすると、子ども目線で子どもをしっかり中心に据えながら、保護者の方々により安全な居場所として、児童館・児童センター・子どもプラザを提供できるようにしていきたい。合わせて、4月から財団になるというところで、1つ大きな節目で変わっていくという期待感も市民の皆様に出しながら、良いPRをして積極的に取り組んでいきたいと思う。</p>
事務局	6 その他
	7 閉会